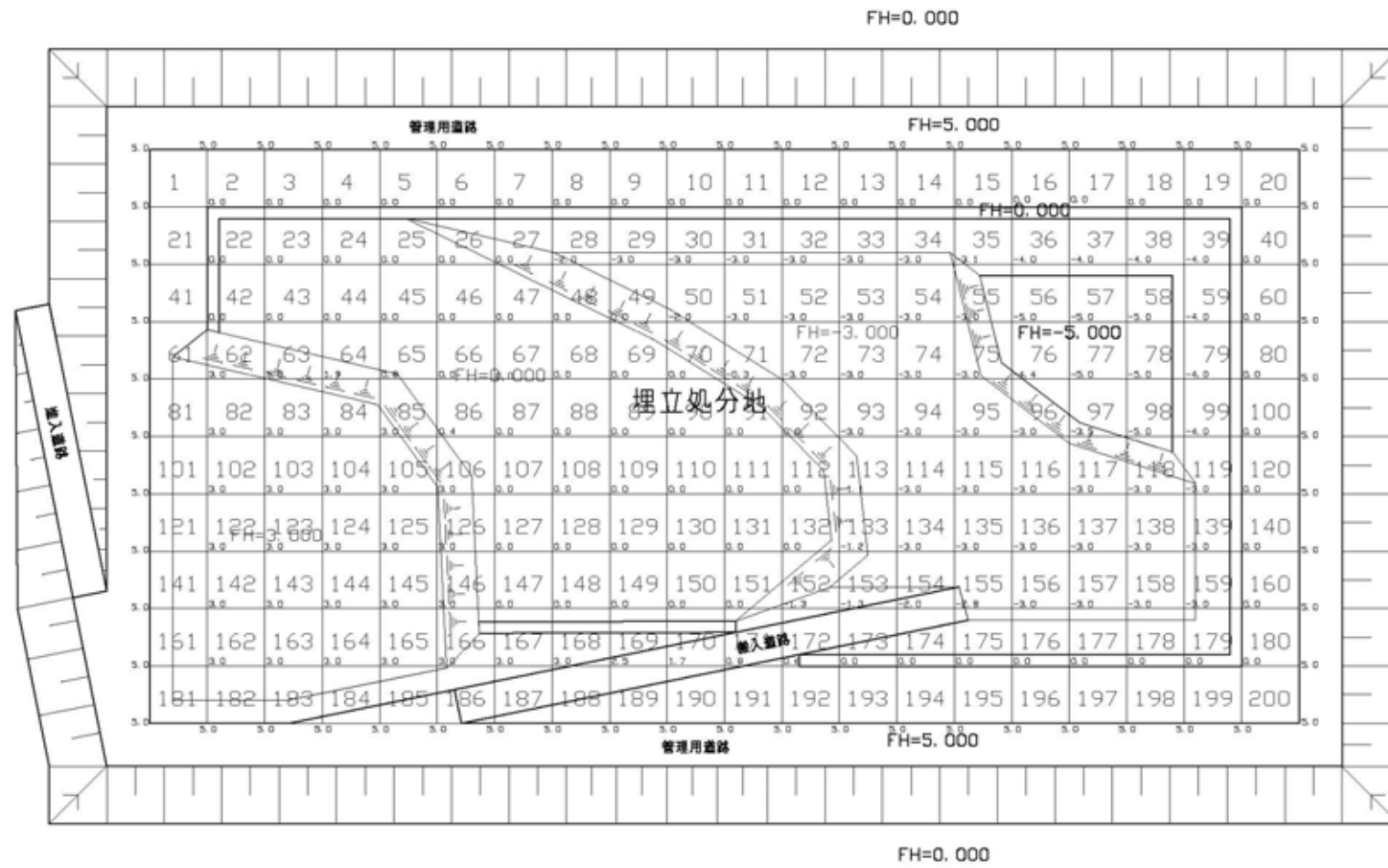


計画平面図



標尺や水準測量により、現状の地形を平面図に描く。概略図で可。
埋立計画形状も併せて描き、メッシュを描く。
このとき、窪地などは個別に面積が測定できるように部分的にメッシュを細かくするとよい。
メッシュ中央点の現状標高と計画造成標高を図から読みとる。
下表のような表を作成し、各メッシュ中央点の標高差を求め、これにメッシュ面積を乗じて、そのメッシュの容量を求める。
各メッシュの容量を累積して、総容量を求める。

メッシュ番号	現況平均標高 (m)	将来標高 (m)	標高差 (m)	メッシュ面積 (m ²)	容量 (m ³)
1	3.8	5.0	1.2	100	120
2	2.5	5.0	2.5	100	250
3	2.5	5.0	2.5	100	250
4	2.5	5.0	2.5	100	250
5	2.5	5.0	2.5	100	250
6	2.5	5.0	2.5	100	250
7	2.5	5.0	2.5	100	250
8	2.5	5.0	2.5	100	250
9	2.5	5.0	2.5	100	250
10	2.5	5.0	2.5	100	250
.
.
.
190	3.1	5.0	1.9	100	190
191	2.9	5.0	2.1	100	210
192	2.7	5.0	2.3	100	230
193	2.5	5.0	2.5	100	250
194	2.5	5.0	2.5	100	250
195	2.5	5.0	2.5	100	250
196	2.5	5.0	2.5	100	250
197	2.5	5.0	2.5	100	250
198	2.5	5.0	2.5	100	250
199	2.5	5.0	2.5	100	250
200	3.8	5.0	1.2	100	120
計				20,000	95,030

図12 メッシュ法による埋立時の残余容量算定例